

上島の俳壇 歌壇

水曜会【弓削】

いもほりでみみず出て来てはしゃぐ子等
アンディ

秋深み文通続きある二人
亀島 一美

兄等去り部屋広広秋祭済む
小西 佳子

若きらの準備着着秋祭
小林しぐれ

鯖雲をずり落ちそうに昼の月
澤井 清

秋風や一戸となりし入植者
田坂 紫苑

島島の影くつきりと秋晴るる
田坂美代子

太鼓打つ児等生生と浦祭
中本砂恵子

大見崇の案山子が一つ豊の秋
畑 弓道

八十路過ぎ目に見えぬ加護朝寒に
原田 千翠

一人居の母咳こぼす秋の雨
森本 恵子

投句 中辻良介(善通寺)
故郷の松原越しに仰ぎ見る山の姿の
今も変らず

凍てつきし帰りの道の遠きこと
木洩日を受けて行き交ふ遍路笠

弓削歌会【弓削】

背丈越す真赤なバラは色深しただ一
輪を三度見て佇つ

純白の服に包まれ抱かるる新生児ま
ぶし中山寺に

群れ咲けるコスモスの色とりどりに
小波大波秋まつ盛り

台風のすぎたるあとの西方に十六夜
の月皎と照りいつ

ゆったりと魚群れ泳ぐ金鱗湖の水の
面に白き湯煙りのぼる

水没のバスの屋根にて結束の三十七
名一夜耐えたり

土砂崩れの現場で救出さるる人する
人も皆命揺れつつ

一反歩の畑に構えし一軒家花を咲か
せて半世紀経し

余震つづく救出現場の映像に静まり
給えと手を組み祈る

嫁活けしすすきの傍え仲秋の団子食



みおり雨月の惜し

平川 房子

生名俳句会【生名】

娘の住める越国遠し鰯雲

村上もとむ

浪音に沿ふ村道の秋の暮

村上 水師

手術着の肌にくたく時を待つ

大本 哲弘

散り急ぐこともなきにぞ枯落葉

野町 正春

癒え急かれ地震の傷跡冬に入る

福島 鳴泉

夜蜘蛛走る部屋にひとりのサスペ
ンス

村上 昌子

にわたずみ底に秋空留めおり

浜口 延子

柿四五十夜明けがらすに皆喰わる

宮本 純

暁の静寂破りて鵲啼ける

福島 布昌

「救出」大きな文字よ神無月

村上 福子

島に生き生きつづけての冬渡船

中本みねかず

生名短歌会【生名】

落柿舎の柿の鈴生り憶いおり木守柿
も残さず奪われ

村上 文子

辛しと笑い熱しと笑うキムチ鍋互い
に明日から又一人なる

村上 宗子

願いても叶わぬ命あるものを死に急
ぐ子等一步止まれ

山本 福子

野菜畑岸に生えたるにらの花の初秋
の風に白き花散る

村上 司

対岸の弓削をまたぎて虹かかり狐の
嫁入り早く帰ろう

渡辺スズ子

大切に手渡しされる二歳児の生命崩
壊に四日耐え抜く

池本 滝子



倒れしまま終りの花を咲かしおるコ
スモスモはや風にも靡かず

濱田伊勢子

街はずれのスーパーあまり広すぎて
娘にはぐれ吾が物買えず

増成 君子

震度七 のうち揺れし川口町野宮
の人らに冷雨しき降る

池田 友幸

双葉俳壇【岩城】

松手入親しき人の声かかる
松手入出来映えお茶を戴きつ

児島 泰

大縄^{ひさかた}吊り上げ明日は秋祭り
松手入庭に浜風匂い来る

田名後敏子

若者の白足袋映ゆる秋祭り
久方^{ひさかた}に帰る故郷秋祭り

林 ヨシ子

地下足袋の十枚鞋松手入
朝寒や毛布をふやす避難場

古林 幹枝

松手入この一枝の思案かな
松手入鉄の音の心地よし

山元 征子

松手入高きに夕日背負い居る
大声にラジオ鳴らして松手入れ

林 七重

親も子もねじり鉢巻秋祭り
秋祭りいなせの群れがはじげ行く

美濃部妃苗

おぼつかない俄か庭師の松手入
指先に残る香りや松手入

伊佐 幹男
秋祭り疲れあらわに稚児の母

秋祭りがきての子らのたくましく

中本砂恵子

剪定のテキスト片手松手入れ
白菊や慎み深き女の如

森本 和佳

ふるさとと捨てたがたかな秋祭
後の月ゆらせて渡るかずら橋

田名後篁雨

文人の自慢の鉢や松手入れ
懐しく肩触れ合うも秋祭

幸本 孤燈

むつみ歌会【岩城】

山道に群がり咲ける泡立草朝光^{あさかけ}のな
か黄の花かがよふ

宮本佳世子

聞ふかき丘より見放くる土生港^{みなと}浮き
立ちて見ゆ灯の瞬きに

田名後節美

大型の台風相次ぎ被害増す科学で防
ぐ術^{すべ}なかりしか

松岡美知子

新札にデザインされし一葉の皺^{しわ}ひと
つなき面差^{おもさ}清し

森本 和佳

伊豆の旅ホテル八階の露天風呂太平
洋は雨にけぶれる

浪本 綾子

人柄を慕ひ詣でし乃木神社に絵馬を
捧げぬ孫のあやかれと

池田 繁雄

老の身に叶ふ料理の下準備椅子の生

活なれども楽し

森本サダ子

写経せし「無」の字二十字「空」
七字静もるあかとき心清らか

白石 勇

新潟より「生きているよ」と娘の
電話神戸の震災活かされてをり

高本 久子

岩城分校【岩城】

連休は一人ごろごろマンガ本超し
あわせでのほん気分

二年生 松浦 唯

八キロ走かすむ目前に秋桜の華や
ぐピンクに背を押されてく

三年生 岡野 麻紀

ハンバーグ調理実習楽しみだ食す
ことが何よりうれしい

三年生 赤瀬 紀之

楽しみの修学旅行に台風が皆の力
で奇跡を起こせ

三年生 引地 瞳

天と地が逆に感じる飛行機の上か
ら眺める雲の波々

三年生 金子 剛

飛行機で夢の旅だよ広島へ雲の上
は神秘的な世界

三年生 田中 勇多

デイズニーはミニス力姉ちゃんう
っはっは！これが都会の遊び場か

三年生 村上 典之

第八回しまなみ海道 俳句大会で好成績

平成16年10月3日、第8回しまなみ海道俳句大会の選定が行われ、応募総数26、782句の中から上島町の4名が特選句に選ばれました。また、20名の方も入選句に選ばれました。

【特選句の紹介】

●小学5年生の部

ひまわりが今満開の祖母の家

野口 晴子(弓削)

●中学1年生の部

ペダル一氣に踏み立たの帰り道

大道 理恵(弓削)

●中学2年生の部

潮風の匂いのついた白いシャツ

佐々木尚土(生名)

●中学3年生の部

夏風や火薬の匂い手に残る

村上 晃一(生名)

試合結果

■四国高校新人陸上選手権大会

10月10日(愛媛県総合運動公園)

片平枝里(今治西高)

800m 優勝 タイム2分21秒28

1500m 第三位 タイム4分53秒03